

埼玉トヨペット Green Brave



2019 RACE REPORT

【#68 埼玉トヨペット GreenBrave GR SPORT マークX】

2019年9月14日(土)～9月15日(日)
ビレリスーパー耐久シリーズ2019 第5戦
もてぎスーパー耐久 5Hours Race



決勝結果 (ST-3 クラス)

#68 埼玉トヨペット Green Brave
GR SPORT マークX
(服部尚貴/脇阪薫一/吉田広樹)

決勝：2位

(130周、5時間00分46秒839)
予選：1位 (ポールポジション)
合算タイム4分10秒532

■ 積極的なピット戦略をとるも悔しい2位。トップと3ポイント差で最終戦へ ■

スーパー耐久の第5戦がツインリンクもてぎで行われた。予選日の天候はくもり。ウォームアップ走行では、服部選手が2位のクルマに約1秒差をつけるトップタイムをマーク。セッティングは順調に進んでいるようだ。午後に行われた予選では服部選手が難しい路面状況の中、2分05秒584をマークし1位。脇阪選手は2分04秒948を叩き出すも、#62 RC350 がそれを上回るタイムをマーク。脇阪選手は2位となったが、合算タイムは4分10秒532で、今季3回目のポールポジション (予選1位) が確定した。予選1位のチームに与えられるポイント (1点) を獲得し、ランキングトップの#34 RC350 と10.5ポイント差で決勝に臨むことになった。

決勝日の天候は晴。スタート前には来春の入社が決まっている学生が応援に駆け付け、パドックは賑やかな雰囲気。多くの人々が見守る中、5時間の決勝がスタート。吉田選手は順当なスタートをきり、1周目のホームストレートをトップで通過。2位の#62 RC350 よりペースは速く、1周毎に両車の差が広がっていく。6周目に5.361秒、21周目には20秒568まで拡大。#62 RC350 は#38 RC350 の追い上げにあい、吉田選手の独走が続く。35周目を過ぎたあたりからライバルがピットに入るようになり、吉田選手も39周を走り終えたタイミングでピットイン。服部選手に交代し、給油のみでピットアウトする。服部選手の順位は2位。しかし、42周目にトップの#34 RC350 がピットに入ったため、服部選手はすぐにトップへ返り咲く。服部選手は順調に周回を重ねるが、スタートから1時間45分を経過した時点で、コース上にクルマがストップ。フルコーススイエロー (FCY) が提示される。服部選手はこのタイミングを見逃さず、47周目にピットイン。給油のみを行い、ピットアウトする。コース上ではオイル処理が始まっており、FCYからセーフティカー (SC) による先導に切り替わっている。SCを利用してリードをさらに広げようとしたチームは再度のピットインを決断。51周を走ったところで服部選手をピットに戻し、タイヤ交換と給油を行い、脇阪選手に交代してピットアウトする。しかし、SCの隊列がホームストレートにかかってしまい、ピットロード出口の信号は赤に。脇阪選手は信号が青になるまでの約1分間、待機を強いられてしまい、周回遅れになってしまう。コースに復帰した脇阪選手の順位は6位。積極的なピット戦略が裏目に出てしまったが、脇阪選手は上位との差を縮めるべく、猛プッシュ。60周目に#34 RC350 を抜き4位。FCY中の72周目には#15 フェアレディZがピットに入り3位へ。さらに92周目には#38 RC350 の前に出て、2位まで順位を回復する。脇阪選手は92周目にピットイン。吉田選手に交代し、給油のみでピットアウトする。コースに復帰した吉田選手の順位は2位のままで、トップの#62 RC350 をとらえるべく、必死の追い上げを見せる。95周目には約30秒あった差が、みるみるうちに縮まっていき、111周目には17秒925、120周目には14秒325まで接近。なおもトップにプレッシャーをかけ続ける吉田選手だが、追い上げもここまで。130周を走り切ったところでチェッカーフラッグを受けた。

NEXT RACE ⇒ 第6戦 (最終戦) 11月9～10日 岡山国際サーキット (岡山県美作市)

DRIVERS VOICE



まわりより圧倒的に速かったのに勝てなかったということを考えて、次に進むしかありません。シリーズを考えたらずっと縮まり、後ろと離れたのでいいのですが、こういうことをしていたらとれるものもとれない。単純に残念というのではなく、何がどうなってこうなってしまったのかというのを早く分析して次につなげないとダメですね。(脇阪薫一選手)

思い通りにいかず、つらいレースでした。SCを狙ってピットに入ったのですが、ロスしてしまい、一番ひどい時は1ラップダウンまでいってしまいました。そこから2位になれたのはある意味上出来だったのですが、今日のレースはほぼ勝てるレースだったので悔しいです。去年よりクルマもチームも強くなっていると思うので、正々堂々と1番をとって終わりたいですね。(服部尚貴選手)

プッシュしてマージンを稼ぎたいんですけど、できるだけ服部さんにタイヤを残したいという意識で走っていました。24秒のタイム差があり、十分離れていたのにSCが出るまでは良かったのですが、FCYやSCがなかなかうまくいきませんでした。服部さん、薫一さんが順位を上げてついでくれたので、プッシュしたのですが、トップのクルマには届きませんでした。(吉田広樹選手)

MECHANIC VOICE

レースに参加したのは初めてです。今回はサインボードを担当しました。支店ではできないことを経験でき、充実していました。サインボードを出すタイミングや、ドライバーに見えやすいことを心がけてやりました。先輩がもう少し角度付けた方がいいよと教えてもらうなど、まわりの方が優しくサポートしてくれたのでやることができました。(朝霞支店・吉田祐志)



ST-3 クラス決勝結果

順位	チーム	周回数
1位	DENSO Le Beausset RC350(レクサス RC350)	130周
2位	埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークX(トヨタ マークX)	130周
3位	ADVICS muta racing RC350 TWS(レクサス RC350)	130周
4位	TECHNO FIRST RC350(レクサス RC350)	130周
5位	岡部自動車 Z34(ニッサン フェアレディZ)	129周
6位	5ZIGEN ADVICS RC350 TWS TRACY(レクサス RC350)	128周

天候:晴 路面:ドライ ※トップ6まで(出走7台)

ST-3 クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	34	TECHNO FIRST	110
2位	68	埼玉トヨペット Green Brave	107
3位	62	Le Beausset Motorsports	91
4位	38	TRACY SPORTS	90.5
5位	39	TRACY SPORTS	81
6位	14	OKABEJIDOSHA motorsport	63

※6位まで(8台中)

埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社 ※50音順

 赤城車体工業株式会社	 株式会社アシスト・ワン	 アルパインマーケティング株式会社	 EMG ルブリカンツ合同会社
 株式会社 FM NACK5	 大宮クリーン社・大進カーエアコン	 株式会社岡崎巧芸	 株式会社カーグラス・JP
 株式会社エヌ・ティ・コーポレーション	 埼玉スリーボンド株式会社	 埼玉トヨペット陸送株式会社	 株式会社テレビ埼玉
 株式会社デンソーソリューション	 株式会社トイファクトリー インターナショナル	 株式会社トヨタカスタマイジング & ディベロップメント	 トヨタ部品埼玉共販株式会社
 株式会社ドーム	 トヨタホーム東京株式会社	 株式会社トヨタレンタリース新埼玉	 株式会社ハッピーライフ彩生
 富士ゼロックス埼玉株式会社	 株式会社プロモーション	 株式会社プロモーション	 丸和工業株式会社